

【資料1】

十勝南モデル地域圏域検討会における検討経過と今後の予定

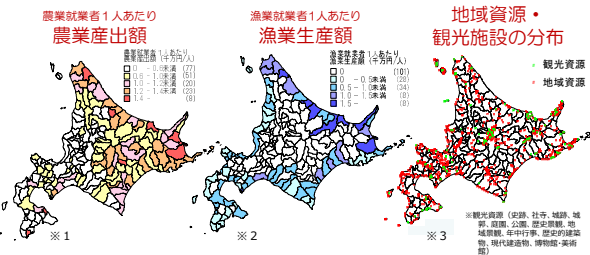
国土交通省 北海道開発局
平成30年8月8日

検討の背景と目的 ～北海道型地域構造の保持・形成～

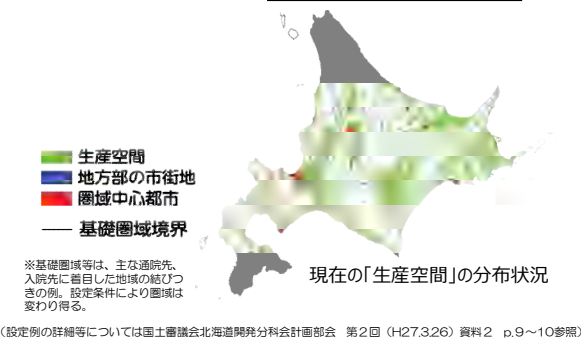
- 北海道の「生産空間」は、主として農業・漁業に係わる場として、食料供給に大きく貢献し、観光その他多面的・公益的機能を提供。これからもその役割を果たし続けるとともに、それを支える人々が住み続けることが必要。
- このため、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される「基礎圏域」を形成し、「生産空間」での暮らしを広域的に支えつつ、人々の活発な対流を促進。

北海道の「強み」を支える「生産空間」

「生産空間」は、広大な農地や豊富な水産・森林資源を強みとして、我が国の食料供給基地として貢献するとともに、豊かな自然環境、特徴ある景観等を提供している。



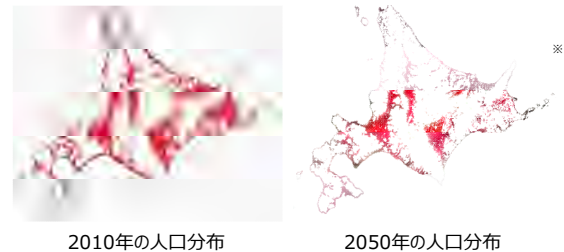
「生産空間」は主に北海道の地方部に分布



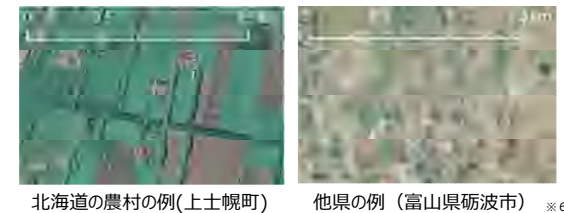
生産空間：
主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域）を指す。生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。

「生産空間」を取り巻く現状と課題

人口減少・高齢化の急速な進行 半数が無人化の危機



散居形態 集落の74%が散居型



このような状況下では、生活施設まで遠く、公共交通の運営が困難など、人口定着には不利な環境

このままでは将来

北海道の「強み」を提供できなくなる可能性

今、まさに「生産空間」の維持・発展が急務

地域構造の望ましい姿 ～「生産空間」のサバイバル～

北海道の「強み」を支える「生産空間」として、10年後も、2050年もその役割を果たし続けるとともに、それを支える人々が住み続けることが必要

そのためには
「定住環境の確保」が必須

頼り頼られる3つの層の
「重層的な機能分担」と「ネットワークによる連携」
(北海道版コンパクト+ネットワーク)

で課題に対応

下記の観点についての取組を
有機的・総合的に実施。

所得・雇用の確保

地域の魅力向上

生活機能・
集落機能の確保

安全・安心な
社会基盤の形成



北海道型地域構造（基礎圏域）～頼り頼られる3つの層～

- ◆ 北海道型地域構造の保持・形成に向けて、国・地方公共団体、地域住民など多様な主体が、一体となって考え・行動するモデル的な圏域を設定。
- ◆ モデル的な圏域における課題やニーズに対応した施策群(施策パッケージ)を検討し、各種制度を有機的・総合的に活用した取組実施を目指す。

※1 出典：農林水産省「H18生産農業所得統計」、総務省「H22国勢調査 産業別人口」 ※2 出典：北海道水産林務部「H24北海道水産現勢」、総務省「H22国勢調査 産業別人口」 ※3 出典：「観光資源台帳」（(財)日本交通公社が事務局として設置した「観光資源評価委員会」が検討・選定し作成）を基に作成

※4 出典：総務省「H22国勢調査」、国土交通省「国土数値情報（土地利用3次メッシュ）第2.3版」、「国土数値情報（将来推計人口メッシュ）（国政局推計）」を基に作成

※5 出典：竹内慎一（北海道立総合研究機構北方建築総合研究所）「北海道の集落の実態分析による地域防災力に関する評価指標の検討」地域安全学会論文集(14), pp37-46, 2011-03 ※6 写真：NTT空間情報（株）

掲載した地図は、必ずしも、我が国の領土を包括的に示すものではない。

十勝南モデル地域圏域検討会(第1回) 開催概要

- ・11月22日(水) 14:30から、更別村「地域創造複合施設 地域創造センター」にて、第1回十勝南モデル地域圏域検討会を開催。
- ・ファシリテーター、学識経験者、6市町村、北海道、地元関係者等の構成員21名、報道機関6社を含め約70名が参加。
- ・ファシリテーターの石田日本大学特任教授より、「生産空間の意義と課題」と題してご講演、その中で行政のみならず各地域の関係者がプレイヤーとして主体的に活動することが重要と指摘。
- ・「十勝南モデル地域の地域構造の課題、施策の方向性について」をテーマにディスカッションを実施。各出席者は、社会インフラのみならず、人材育成、雇用創出、観光振興、商品の高付加価値化、スマート農業など、この地域の取組の現状及び今後の課題について議論。
- ・今後、ワーキングチームにより地域の課題や課題の解決に必要な施策などを検討。これを踏まえて、次回検討会では施策パッケージの検討を行う予定。

会議の様子



【検討会出席者:敬称略】

- ・日本大学 特任教授
- ・帯広畜産大学 環境農学研究部門 教授
- ・帯広信用金庫 地域経済振興部長
- ・北海道更別農業高等学校 教頭
- ・広尾漁業協同組合 女性部連絡協議会 会長
- ・ナウマン温泉ホテル アルコ236 支配人
- ・中札内村観光協会 会長
- ・大樹町地域おこし協力隊
- ・十勝バス株式会社 事業本部長
- ・帯広市
- ・中札内村
- ・更別村
- ・大樹町
- ・広尾町
- ・幕別町
- ・北海道 十勝総合振興局
- ・国土交通省 北海道局
- ・国土交通省 北海道運輸局
- ・国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局
- ・国土交通省 北海道開発局
- ・国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

石田 東生 (座長)
仙北谷 康
秋元 和夫
川嶋 修一
城山 美津枝
菅原 政成
豊岡 保行
中神 美佳
長沢 敏彦



石田先生の講演



倉内次長挨拶



自治体関係構成員



民間企業関係構成員

十勝南モデル地域圏域検討会(第1回) 主な意見

【人材育成・確保】

- ・協同組織金融機関として、十勝の自治体や生産者・事業者・団体等に対し、それぞれの課題解決に資するマーケティング支援や人材育成などに取り組んでいる。「おびしん地域経営塾」はそのひとつだが、人材育成にとどまらず異業種交流やマッチングの場にもなっている。取組は単発とせず、包括的・体系的かつ継続的に実施するよう心がけている。
- ・広尾小学校5年生を対象に鮭のさばき方を教え、料理をして一緒に食べる「食育授業」を行っている。
- ・移住について、誰でも移住してくださいではなく、商品企画、プロモーションなどのスキルがある人材を呼んでくるべき。

【雇用創出、促進】

- ・十勝に就職したい、農業をしたいという学生が多い一方、農業の現場では人手不足。このミスマッチをどう解消するか、農業で魅力ある雇用の場を作っていくかが課題。
- ・生徒の9割は就職先が十勝。十勝から出たいという生徒は少ない。今後もみんなが働きたくなる魅力ある企業が増えてほしい。
- ・雇用面では8割が忠類在住。高規格道路の通いやすさから帯広、更別、大樹などから通う方もいる。村でも定住を勧めているので、定住も含めた雇用促進に努めたい。
- ・若い人に刺さる仕事のキーワード第1位は「まちづくり」。収入とか何時間働くではなく、面白い、やりがいがあるかが重要。
- ・若手芸術家が酪農ヘルパーをしながら芸術をやる「半農半芸」、や「半農半医者」など、新しい働き方があり、それをどうプロモーションしていくかが大事。
- ・今後の課題は乗務員不足。減便や廃便に至る例もある。高校生を新規採用し3年後にドライバーになってもらう雇用の推進、社会人からの転職促進、自社で免許を取ってもらうなどの取組が重要。

【農業、高付加価値化】

- ・大規模な農地は、家族経営では限界があり、法人化もハードルが高いため、IoTを活用したスマート農業の実証実験を行っている。
- ・「フードバレーとかち」を産業施策として位置付け、スマート農業の推進、食品の安全管理、商品開発などに取り組んでおり、これらを圏域全体の活性化につなげたい。
- ・道の駅では、単価の安い商品が多く、集客の割に売り上げが少ない。付加価値をつけ、経済波及効果を向上させることが課題。

【観光】

- ・観光面ではグランピングが人気で、冬期間でもできないか検討。雪の少ないアジア向けのインバウンドの取組に繋げたい。
- ・体験メニューが少ないことが課題。資源をどう商品化するか。
- ・ロケットの打ち上げは観光面でも力があると実感。次回以降の打ち上げの際には、南十勝の色々な情報発信をする場にしたい。
- ・農業はITによる無人化等による対応が可能だが、観光はマンパワーが必要。観光を担う人材育成が課題。
- ・マレーシアからの観光客を受け入れて好評。外国人観光客を増やしたいが、多言語化、Wi-Fiの整備が必要。
- ・スマホを利用して目的地までの異なる交通機関の乗り継ぎが一目でわかるワンストップ情報サービスが必要。

【インフラ整備、物流、防災、その他】

- ・福祉、医療、教育など帯広に依存、高規格道路の整備が重要。
- ・物流の統計で貨物量は減っているが、個数は増えているという状況。人口が少ない地域で物流ネットワークを維持する解決策の1つとして、昨年からの貨客混載を進めているが、この地域でも進めたい。
- ・昨年の台風で橋が2本通行止めとなり、文化センターで一晩過ごした。避難の準備、心構えを持つことが重要。
- ・協議に終わらず、成果を形として実践する検討会にしたい。
- ・取組について、行政側が一方的に作るのではなく、地域と一緒に取り組んでいる方に落とし込んでいく部分も必要。
- ・南十勝では高規格道路の整備や航空宇宙の取組が進むなど風が吹いている。今が道の駅も含め色々な面で仕掛けるチャンス。

十勝南モデル地域圏域検討会ワーキングチーム(第1回) 開催概要

- ・平成30年5月8日(火)13:30から、帯広開発建設部において、第1回十勝南モデル地域圏域検討会ワーキングチームを開催。
- ・6市町村、北海道、地元関係者等の約50名が参加。
- ・今年度開催を予定している第2回検討会に向け、施策パッケージの骨子に係るテーマ(食・農林水産業、物流・人流、観光・まちづくり、安全・安心)について、意見交換。
- ・今後も数回のワーキングチームにて議論し、次回検討会で提示する施策パッケージ(案)における具体的な取組事項について、検討する予定。
- ・ワーキングチームについては、テーマ毎の取組を着実に進めるために、取組内容に応じて機動的に開催し、掘り下げた議論ができるよう参加メンバー及び人数等は柔軟に対応できる形式とすることを確認。

会議の様子



意見交換の様子



【ワーキングチーム出席者:敬称略】

- ・帯広畜産大学 環境農学研究部門 教授
- ・帯広信用金庫 地域経済振興部長
- ・北海道更別農業高等学校 教頭
- ・広尾漁業協同組合 女性部連絡協議会 会長
- ・株式会社キタテラス 代表取締役
- ・ナウマン温泉ホテル アルコ236 支配人
- ・トヨタ自動車株式会社 国内営業部
地域営業室 担当課長
- ・北洋銀行 帯広中央支店 統括副支店長
- ・北洋銀行 帯広中央支店 渉外課 課長
- ・北海道銀行 地域振興公務部 次長
- ・北海道銀行 地域振興公務部 調査役
- ・帯広市
- ・中札内村
- ・更別村
- ・大樹町
- ・広尾町
- ・幕別町
- ・北海道 総合政策部 政策局
- ・北海道 十勝総合振興局
- ・国土交通省 北海道運輸局
- ・国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局
- ・国土交通省 北海道開発局
- ・国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

- | | |
|-----|-----|
| 仙北谷 | 康 |
| 秋元 | 和夫 |
| 重堂 | 法人 |
| 城山 | 美津枝 |
| 神宮司 | 亜沙美 |
| 菅原 | 政成 |
| 小西 | 顕一 |
| 鷲田 | 宏治 |
| 中谷 | 章 |
| 辻 | 英樹 |
| 大道 | 巧 |

十勝南モデル地域圏域検討会ワーキングチーム(第1回) 主な意見

【食・農林水産業】

- ・農業は生産性が高い一方で、生産者が減っている。生産空間の維持と、人口減少問題の解決のための生活空間の充実が結びついていない。
- ・農業は季節性の問題があり、産業や企業が横のつながりで連携して、雇用を維持していく方法を検討する必要がある。
- ・生産と企画・開発などを役割分担した方がいい部分もある。十勝は連携体を作るのが苦手である。小規模事業者との連携がやりやすいと思う。
- ・産学官、農商工の連携システムづくりが課題。連携体を作ることの有用性を示すために始めた十勝酒文化再編プロジェクトなどを参考にしてほしい。
- ・大規模農業を進めており新規就農は難しい状況。IoTを使った先進的な取組も視野に入れ、研究機関との連携を深めている。
- ・酪農については、生産者の半数以上が法人化し規模を拡大しているが、労働力を外国人研修生に頼っていて、なかなか働き手がいない状況である。
- ・商社と協力して生産の委託やマーケティング・ブランディングのサポート体制を作っている。人手不足には1次産業の人材派遣会社活用も考えられる。
- ・高校生など若者の人材流出があり、マッチングというのが、1つのネックとなっていると考えて、何か支援を行えないかと考えている。

【物流・人流】

- ・物流の効率化に向けて、片荷輸送を解消するために、民間事業者間の連携が必要。
- ・特産品を販路拡大する前に、逆に来てもらうため、幕別町の食を取り入れた食事にしたり、泊まった後にお土産を買ってもらう仕組みを考えている。
- ・ナウマン温泉ホテルでは、観光のシーズンになると、通常の土日の2倍から3倍の集客が得られることから、周辺の市町村とも連携したい。
- ・循環バスを運行しているが、時間が限られているなど、農村地区に住む方の生活交通の確保に課題がある。
- ・生活交通の足の確保が課題となっている。農村地帯で一人で生活している人の移動手段がないので、外出支援サービスなどの充実が必要。
- ・本州の事例では、物流費が非常に高騰しているので、一つのコンテナで色々な商品をパッケージングして一人の消費者に届けたりというものもある。
- ・交流人口が非常に大事で、公共交通の維持が必要。南十勝では、鉄路がないためにインバウンドを取り損なっている可能性がある。
- ・貨客混載により地域産品の航空輸送が可能となった事例あり。生産者のニーズに関わる情報をいただき、物流事業者等を紹介することにつなげたい。
- ・不便を感じている地域を把握するために、いくつかの地域で、農村部に対するデマンド交通の実証実験をしている。引き続き検討が必要。

【観光・まちづくり】

- ・トレイルランや釣りのコースを作るなどのチャレンジ的な企画や、全国の中・高校生を受け入れられるよう教育旅行のメニューを幅広く用意すべき。
- ・魚を使った食育事業として、広尾町では、東京の江戸川区の小学校5年生の子供を受け入れて、漁師の家に宿泊させる事業を3年やっている。
- ・サイクルツーリズムは大きな可能性があり、自治体、開発局、民間事業者が連携し、コンテンツの掘り起こしや受入環境の整備、情報発信を進めることが大事。
- ・人口減少は避けられないので、交流人口を増やすことが必要。道の駅を活用した特産品PRとして、そこでしか買えないものを打ち出し周遊を図る。
- ・各分野のトップランナーを先生として招いている更別熱中小学校は第3期目となり、150人の受講者のうち村外が3/4を占め、起業を目指す人もいる。
- ・働きながら大樹町の生活を体験してもらうワーキングステイや、若手芸術家を地域に呼び、地域の担い手として働いてもらうという取組をしている。
- ・東京の小学校の給食にサケ、昆布などの食材を年3回程度提供している。子供が食べたいと言えば親は買うものなので、本物の味を知ってもらう。
- ・観光まちづくりについては、地元の熱意が非常に重要で、地域の人が危機感を感じて取り組むことが必要。

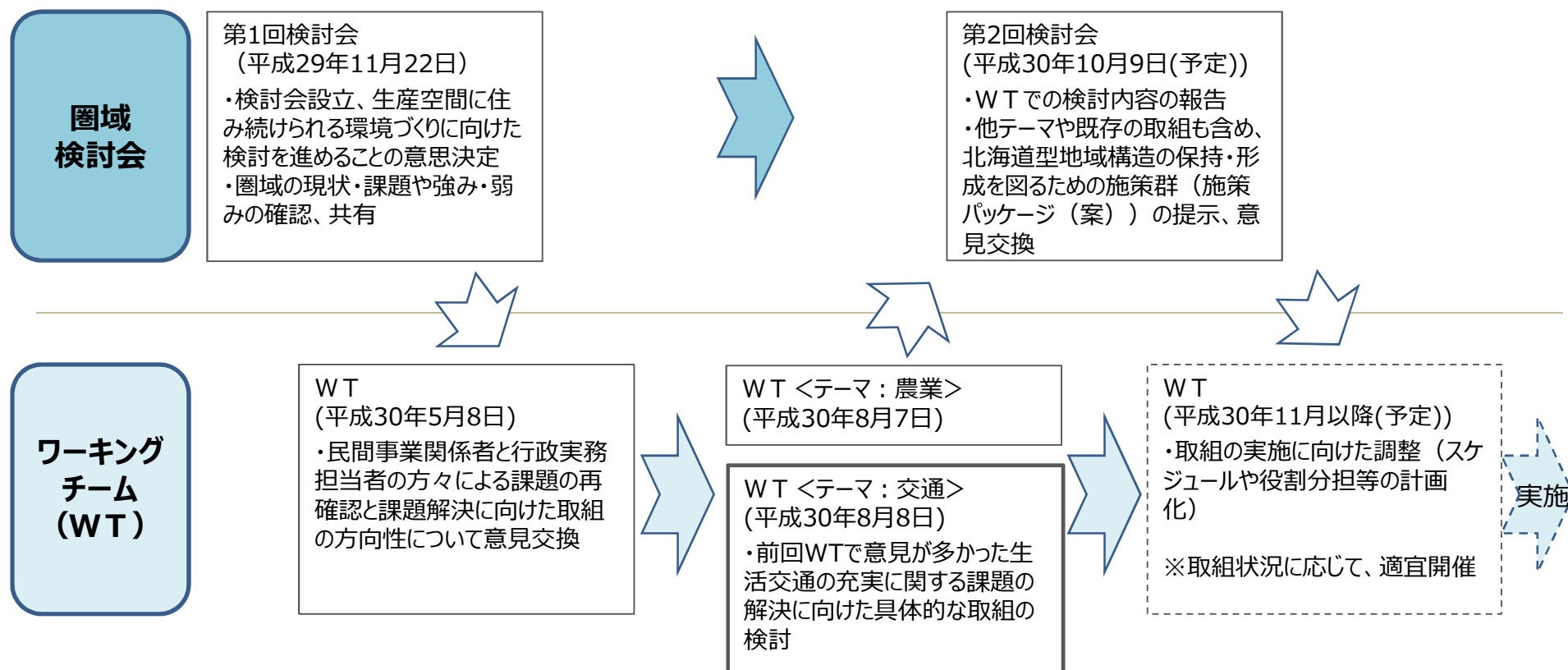
【安全・安心】

- ・1000年に1度の大きな雨があっても浸水しない庁舎を作り、防災の強化を図ることとしている。地域の関係機関と協力して防災を図っていききたい。
- ・防災計画の見直しを行っている。2年前の台風では、畑地などに被害があったので、住民の方にも防災意識がある。
- ・雨への備えが非常に大事だと感じており、町内だけではなく横の連携も大事である。
- ・地域の自主防災組織の立ち上げをして、自主防災を進めている。今回、初めての避難訓練を実施して、行政が絡んで防災体制を構築していきたい。

【全体】

- ・長年の施策の成果を地域が十分享受できていない。施策の効果検証や、施策の情報が必要とする方に行き届き、活用されているかの検討が必要。
- ・今後のワーキングチームの進め方として、実際に事業に取り組んでいる民間の方と議論した方が良い。
- ・第三者が課題をみつけて、何らかの取組を働きかけたところで、課題に直面している方々が自らその課題を解決しようと動かないと課題解決のための取組が定着しないことが多い。

十勝南モデル地域圏域検討会での検討経過と今後の予定



十勝南モデル地域圏域検討会規約（抜粋）

（目的）

第2条 本検討会は、北海道総合開発計画の基本方針に掲げられている北海道型地域構造の保持・形成に向けた必要な事項の検討を行い、生産空間に住み続けられる環境づくりを推進することを目的とする。

（検討内容）

第4条 検討会の議題は、次のとおりとする。

- （1）北海道型地域構造に係る現状把握と課題に関すること。
- （2）生産空間に住み続けられる環境づくりのための施策検討及びその実施に向けた調整。
- （3）その他の北海道型地域構造の保持・形成のために必要な事項に関すること。

（ワーキングチーム）

第6条 座長は、各々の施策を着実に進めるため、必要があると認めるときは、ワーキングチームを設置することができる。